

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030	
法人名	有限会社 ほほえみ	
事業所名	グループホームほほえみの家 (第1ユニット)	
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1	
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203030-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203030-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 5 年 11 月 21 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を基盤に、個人の人格を尊重し一人一人に寄り添い入居者様の今迄の生活出来るだけ変えずに、その人らしい生活が送れるように支援しています。デッキから見える田園風景は、田植えや稲刈等四季の移り変わりを身近に感じることができます。いつでもデッキに出て外気浴や散歩ができる環境です。デッキ横の道路からは、犬の散歩をしている近所の方々がワンちゃん(ココちゃん)や入居者様に気軽に声を掛けて下さいます。月一回の音楽療法や月行事を企画して皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしていただいています。質の高いサービスを目指し、職員が研修に参加できるように取り組んでいます。また隣にえんさこ医院があり、入居者様の健康に関する相談や急変時の対応ができています。ライン等を活用し24時間医師との連携がとれているので、入居者様やご家族様に安心して生活して頂けます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から程近く、周辺には田んぼもあり、窓を開けると心地よい風と共に四季の香りが感じられる事業所である。優れている点として挙げられるのは、以下の3点である。まず、ケア記録アプリを使用して、職員の業務負担の軽減を図ると共に、主治医や職員間の情報共有がスムーズに行われていること。次に、コロナのため、事業所として外出することがままならない中、墓参りや法事、外食などに家族が積極的に連れ出していること。三つめに、多くの有資格者により、質の高いケアが提供できるよう取り組んでいること。また、積極的に外部研修に参加し、スキルアップを図っていることがある。工夫点は、トイレの入口にレースカーテンを設置し、利用者のプライバシーに配慮した点が挙げられる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々に愛し愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として支援している。クレドを毎朝朝礼時に全員で唱和している。	玄関及び詰所に理念を掲示し周知すると共に、朝の申し送りの際に唱和している。また、接遇委員会(年2回)の中で振り返っている。いつでも理念に立ち返れる様、名札裏に理念カードを入れて持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人々との交流は深く出来ていないが、学区の運動会を観に行ったり、デッキでココちゃんとお過ごししたり、外気浴をしていると通りすがりの方が挨拶をしてくれる。	民生委員から地域行事(ふれあい祭り等)の案内はあるが、コロナの影響で参加できていない。また、卓球クラブへの送迎やマラソン大会の応援など、コロナで中止となっている。4年ぶりに学区の運動会を観に行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『ほほえみだより』の新聞を1年に4回作成し、掲示している。ご家族の方や外部の方にも見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防に努めながら定期的開催している。地域包括支援センターの方・民生委員・入居者様・ご家族様等が参加され、活動内容・入居者様の状況等について報告し、意見や要望を頂いている。	2ヶ月に一回、地域包括や民生委員、家族、近隣のグループホームなどが参加して、会議を開いている。出された意見は、避難場所の確保(母体クリニック2階)などに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの方が毎回参加して下さり、意見交換を行ってアドバイスをいただいている。	窓口は施設長代理であり、分からないことや聞きたいことがあればその都度、電話やメールで密に連絡・相談しながら、丁寧に話し合える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会や研修を行い、職員全員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。職員が常に共通意識を持ち入居者様に行動制限をかけない暮らしができるよう話し合っている。出入り口は鍵をかけずアラームを設置している。	3ヶ月に一回、身体拘束適正委員会を開いている。また、年2回、自己チェックシートを用いて研修を行っている。マニュアルを用いて、カンファレンスでも身体拘束やグレーゾーンに関して話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為に指針を整備している。日頃から職員の間で言動や対応が不適切にならないよう自己チェックシート活用し勉強会を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度の活用が必要な方はいないが必要時に活用できるように研修に参加する等、理解を深めている。また包括支援センターの方にその都度お聞きし、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できる様に十分時間を取り説明をしている。契約後も不安や疑問点などがないかお尋ねするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対しては、面会時や電話にてお話をし意見・要望の確認している。入居者様からは日々の関わりで傾聴している。意見や要望が出しやすいように雰囲気づくりに努めている。	家族は面会や電話連絡時に、利用者は日常会話の中から意見や要望を聞き取っている。出た意見は、見守り重視の入浴支援やシートヒーター付きポータブルトイレの購入、食事メニューなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会・人事考課などを通じて意見や提案を聞く機会を作り、運営に反映できるように努めている。また日頃よりコミュニケーションを図りお互い言いやすい関係を築くように努めている。	各ユニットで毎月行うカンファレンスや勉強会、個別面談(年1回)を通じて、意見や提案を聞き取っている。出た意見等は、手摺の設置や電化製品の購入、就業時間の変更、外部研修への参加などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員一人一人の努力・目標を評価し給与や賞与に反映している。また研修への参加や資格取得へのサポートを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修には一人でも多くの職員が参受講できるように勤務人数に配慮している。外部研修は情報を提示し参加希望者には支援を行っている。研修後はレポートを提出してもらいスタッフ全員に回覧し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは事前面談を行い、情報共有を行い、入居前の生活環境・日課を大切にすることで入居者様に安心して生活して頂けるよう努めている。日々の関わりの中で小さな変化にも気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望・不安や困っていること等お話しを聞く時間を十分にとり、そのお気持ちを受け止め、職員間で共有するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態・状況等のお話をお聞きし、何を必要としているのか見極め、他のサービスの提案もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切にし、共に笑い、入居者様の話に耳を傾け共感し、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ等の感染症の予防の為、家族会は行えていないが、入居者様の近況状況や健康状態の変化報告等、面会時やお電話・お手紙でお伝えし関係性を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の今迄の生活を維持することを大切に考え、近所に住んでいた方の面会等気軽に足を運んでいたような温かい雰囲気グループホーム作りに努めている。自宅や、お墓参り、近所の挨拶回り、買い物等外出を希望され支援した。	親戚や孫、スポーツ仲間等の面会時には、関係が継続できるよう、細かい配慮に努めている。電話の取次ぎや年賀状のサポート支援もしている。家族と一緒に法事や病院に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分から輪の中に入っていきることが難しい入居者様には、職員が間に入り話題を提供したりレクリエーションにお誘いすることで仲間意識が生まれ和気あいあいとした雰囲気作りが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談などがあれば情報を提供し、家族との関わりを持つようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り入居者様の何気ない様子や会話の中からご本人の思いや希望をくみ取り、又ご家族様ともお話をしニーズの把握に努めている。	トイレや入浴時など、何気ない日常生活の中で暮らしの希望や意向を把握している。把握が困難な場合は、家族や居宅時代のケアマネジャーから情報収集したり、利用者の表情や言動などから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞きフェイスシートを作成し、職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況(家事・生活動作・趣味活動等)を個人記録に細かく記入を行い把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中でご家族の要望や一人ひとりのケアについて職員全員(看護師も含め)で情報交換を行い、ケアの統一が図れるようにしている。	担当職員がモニタリングした結果は計画作成担当者がチェックし、カンファレンスの中で話し合っている。主治医や訪問看護、作業療法士などの意見や提案も計画に反映している。状態が変化した時はその都度、プランを見直ししている。介護ケアアプリを活用し、効率よく情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は電子カルテを活用し申し送りをしている。日々の生活の中での小さな気づきや、ご本人様の表情や言葉など個人記録に記載している。また細かな情報共有は重要申し送りノートや医療ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅時に飼われていた愛犬と一緒に入居された方がおられた、その犬の散歩を、朝・夕行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩の際には近所の方と、挨拶だけでなく時にはおしゃべりも楽しませている。また地域包括支援センターの職員、民生委員の方と地域の情報交換が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医で行っている。えんさこ医院とはラインを活用し迅速な対応を行っている。また希望するかかりつけ医に受診をして頂いている。内容は受診記録用紙に記録し職員が情報を共有している。訪問歯科も対応できるように支援している。	かかりつけ医が協力医であり、2週間に一回受診している。専門医への受診は家族対応としている。定期(週1回)で訪問看護が来ており、健康管理について相談したりアドバイスもらっている。また、不定期ではあるが作業療法士も来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション(よつ葉)の看護師が月4回健康チェックを行っている。また職場内にも看護師がおり、状況変化や対応について気軽に相談でき、連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院との情報共有を行い連携をとっている。入院中は、ご家族や医療機関と連絡をとり情報交換をしながら退院時の支援を行っている。退院前には安心して生活できるよう準備・対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡し、説明を行っている。事業所の出来ること出来ないことをお話しする。救急対応等、主治医との話し合いの場を設けている。状態変化があるごとに主治医に報告し指示を仰ぎその都度ご家族に説明している。医療との連携をとりながら終末期ケアに取り組んでいる。	契約時、出来ること・出来ないことを説明し、終末期における意思確認書ももらっている。重度化した場合は主治医が説明すると共に、施設長代理が指針等を説明し、同意書を交わしている。外部の看取りの研修に参加した時は、カンファレンスを通じて全職員に周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成している。ミーティングで見直しを行っている。緊急時の連絡や対応方法は職員が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、災害・水害訓練や夜間想定避難訓練を年2回を行っている。避難経路や自動通報装置の使い方などの再確認をしている。災害時の避難食の備蓄も行っている。	利用者も参加して、夜間を想定した避難訓練(年1回)と水害・火災を想定した訓練(年1回)を行っている。また、消防署立ち合いのもと、消火器の使用法を学んだり、アドバイスをもらったりしている。休憩室に乾パンや栄養補助食品などの備蓄品を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を受けたり、社内情報の流出には十分注意している。入居者様を尊重した声掛けや相手の立場になって対応を心掛けている。そして日頃から職員同士で注意や反省を行うようにしている。	否定的な言葉を使わない、命令口調で話さない、さん付呼称など、自尊心を傷つせず、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけ・対応に努めている。また、年3～4回接遇研修を行い、共通認識を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定しやすい声かけ、希望を言いやすいような環境を作るように配慮している。その人にあった声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の希望や体調に合わせ、出来るだけその人らしい生活が出来るよう支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔・整髪、男性の方は髭剃りをして頂き、着替えの時はどの服が良いか選んで頂いている。2ヶ月に1回移動美容車がきて、散髪や毛染め等、入居者様と相談しながら行っている。また1ヶ月に1回、希望の訪問美容院を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月行事として季節を感じて頂ける食事や祝い事での献立を工夫している。入居者様と一緒にサンドイッチや恵方巻き・手作りのおやつを作ったりしている。食後には後片付け、食器拭きやお盆拭きの手伝いをして頂いている。	行事食(毎月1回)の日には、弁当やお寿司を注文したり、ホットプレートで焼きそばやお好み焼きを焼いたりして、食事が楽しみなものになるように工夫している。また、毎年、利用者からアドバイスをもらいながら、らっきょうを漬けたり、梅(しそ)ジュースを作ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きな物を飲んでいただけるようにしている。食べにくいおかずはキザミなど形態を変えてお出ししている。嚥下障害がある方には、水分にとろみをつけ誤嚥予防をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っている。看取りの方は口腔スポンジや口腔ウェットティ等を使って清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるようタイミングを計り、自尊心に配慮した声かけ誘導を行い、気持ちよく排泄が出来るように努めている。	排泄記録から排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレやオシメなど、個々に対応している。布パンツの利用者も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、牛乳やお茶等の水分補給を行い便秘の解消を行っている。入居者様一人ひとりの排便チェック表にて把握できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴支援を行っている。入浴前にご本人様に声かけを行い希望の時間帯をお聞きし、出来るだけ希望に沿えるようにしている。	週2～3回の入浴を基本としている。入浴時間(午前・午後)の希望を聞いたり、好きな温度に設定したりして、快適になるよう支援している。また、入浴剤を入れたり、季節湯(ゆず湯)をしたり、世間話をしたりして、楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操をしたり散歩に出かけたり、デッキにお誘いして犬と遊んだり日中の活動量を増やし夜間安眠して頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの処方箋やお薬手帳があるのでいつでも確認することができるようにしている。入居者様の症状に変化があれば、医師に服薬の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯たたみ・洗濯干し・テーブル拭きなど、その方にあった家庭的な活動を支援している。ご本人様の得意とすることや趣味(小物作り・ぬり絵)等、活躍できる場を見つけ日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日はえんさこ医院周辺を散歩したり外気浴を行っている。面会時や手紙などでご家族様と連絡を取り、外出する楽しみを支援している。買い物や墓参り、近所の挨拶回りに行かれた。コロナ等感染の為、面会は予約制で10分、終末期ケアの方は制限を設けず随時出来るようにしている。	家族と一緒に日用雑貨を買いに行ったり、墓参りや法事、挨拶回りに出かけたりしている。コロナ前には、職員と一緒に近くのバラ園に行ったり(家族と現地集合)、初詣に出かけたりしていた。また、スポーツ仲間と一緒にクラブに行く利用者もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりすることはしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、ご本人の希望があれば自由に電話ができるようにしている。お友達に手紙や葉書(年賀状を含む)を書かれた際には、投函まで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者様の手作りの作品や、毎月行っているアクティビティの写真と季節の花を飾っている。ホールの照明は太陽光を遮るロールカーテンを使用し優しい光に包まれている。	共有ホールは天井が高く、解放感があり、温度や湿度も適切に管理されている。また、レクリエーションで作成した壁画や行事写真などが掲示され、季節感を醸している。個々に思い思いの場所でゆったりと過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、デッキのベンチに座りおしゃべりしながら四季を感じられる環境となっている。ホール内のソファで気の合う方同士でお話をされている姿もよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具や食器などを持ち込んで頂き、その方らしい生活が出来るよう配慮している。ホームで撮影した写真や自宅から持ってきた家族の写真を貼ったり、アルバムなど置かれている。	自作のPATCHワーク作品や馴染みの家族写真や毛布、使い慣れた化粧道具などが持ち込まれており、個々に居心地良い空間となっている。また、誕生日の喜びを思い返せる様、家族や職員からもらった誕生日プレゼントや色紙を大切に掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が居室やトイレ・風呂などがわかりやすいように表札や貼紙をして、過干渉にならないよう見守りだけで活動して頂くようにしている。状況に応じてペットの配置やタンスの位置などを変える工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203030	
法人名	有限会社ほほえみ	
事業所名	グループホームほほえみの家 (第2ユニット)	
所在地	岡山県倉敷市下庄457-1	
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 26 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203030-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370203030-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 5 年 11 月 21 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を基盤に、個人の人格を尊重し一人一人に寄り添い入居者様の今迄の生活を出来るだけ変えずに、その人らしい生活が送れるように支援しています。デッキから見える田園風景は、田植えや稲刈等四季の移り変わりを身近に感じることができます。いつでもデッキに出て外気浴や散歩ができる環境です。デッキ横の道路からは、犬の散歩をしている近所の方々がワンちゃん(ココちゃん)や入居者様に気軽に声を掛けて下さいます。月一回の音楽療法や月行事を企画して皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしていただいています。質の高いサービスを目指し、職員が研修に参加できるように取り組んでいます。また隣にえんさこ医院があり、入居者様の健康に関する相談や急変時の対応ができています。ライン等を活用し24時間医師との連携がとれているので、入居者様やご家族様に安心して生活して頂けます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から程近く、周辺には田んぼもあり、窓を開けると心地よい風と共に四季の香りが感じられる事業所である。優れている点として挙げられるのは、以下の3点である。まず、ケア記録アプリを使用して、職員の業務負担の軽減を図ると共に、主治医や職員間の情報共有がスムーズに行われていること。次に、コロナのため、事業所として外出することがままならない中、墓参りや法事、外食などに家族が積極的に連れ出していること。三つめに、多くの有資格者により、質の高いケアが提供できるよう取り組んでいること。また、積極的に外部研修に参加し、スキルアップを図っていることがある。工夫点は、トイレの入口にレースカーテンを設置し、利用者のプライバシーに配慮した点が挙げられる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域人々に愛し愛されるグループホームを目指し、地域の人々との関係づくりに取り組んでいる。「個人を尊重し、その人らしく生活できるように援助する」を理念として支援している。クレドを毎朝朝礼時に全員で唱和している。	玄関及び詰所に理念を掲示し周知すると共に、朝の申し送りの際に唱和している。また、接遇委員会(年2回)の中で振り返っている。いつでも理念に立ち返れる様、名札裏に理念カードを入れて持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染の用心の為、自粛している。地域の人々との交流は深く出来ていないが、散歩時は、通りすがりに挨拶をしている。	民生委員から地域行事(ふれあい祭り等)の案内はあるが、コロナの影響で参加できていない。また、卓球クラブへの送迎やマラソン大会の応援など、コロナで中止となっている。4年ぶりに学区の運動会を観に行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『ほほえみの家便り』の新聞を1年に4回作成し、提示している。ご家族や外部の方にも見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。地域包括センターの方・民生委員の方に参加して頂いて状況等について報告し、意見などをいただいている。新型コロナの影響でご家族様の参加は1度だったが、入居者様は、時々参加して頂いている。	2ヶ月に一回、地域包括や民生委員、家族、近隣のグループホームなどが参加して、会議を開いている。出された意見は、避難場所の確保(母体クリニック2階)などに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、包括センターの方が毎回参加して下さい、意見交換を行ってアドバイスを頂いている。	窓口は施設長代理であり、分からないことや聞きたいことがあればその都度、電話やメールで密に連絡・相談しながら、丁寧に話し合える関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内研修を行い、職員全員が研修の報告をして身体拘束のないケアに取り組んでおり、職員が常に意識できるようにしている。カンファレンスを行い、ベッドからの転落の危険がある入居者様には、ベッドをよめて床にマットレスと布団を敷き休んで頂けるようにしている。	3ヶ月に一回、身体拘束適正委員会を開いている。また、年2回、自己チェックシートを用いて研修を行っている。マニュアルを用いて、カンファレンスでも身体拘束やグレーゾーンに関して話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などを行い、虐待防止の為に指針を整備している。日頃から職員の言葉による虐待等もないようにし、入居者様に安心して生活して頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの方に、その都度お聞きし、学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様が理解・納得できるように十分時間をとり説明をしている。契約後も、不安や疑問点などがないかお尋ねするようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とは、日々の生活の中で信頼関係を築き、意見や要望を出しやすいように雰囲気づくりに努めている。ご家族様に対しても、面会時や電話にてお話をし意見・要望の確認に努めている。	家族は面会や電話連絡時に、利用者は日常会話の中から意見や要望を聞き取っている。出た意見は、見守り重視の入浴支援やシートヒーター付きポータブルトイレの購入、食事メニューなどに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや勉強会・人事考課などを通じて、意見や提案を聞く機会を作り、運営に反映できるように努めている。	各ユニットで毎月行うカンファレンスや勉強会、個別面談(年1回)を通じて、意見や提案を聞き取っている。出た意見等は、手摺の設置や電化製品の購入、就業時間の変更、外部研修への参加などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員一人一人の努力・目標を評価し給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修に参加して頂いたり、外部研修の情報を提示し参加希望者には支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染の用心の為、現在は交流の機会が少ないが、各部署の情報交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の情報共有を行い、入居前の生活環境・日課を大切にすることで入居者様に安心して生活して頂けよう努めると共に、日々の関りの中で小さな変化にも気づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望・不安や困っていること等お話を聞く機会を十分にとり、お気持ちを受け止め、職員間で共有するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、状態、状況等のお話をお聞きし、何を必要としているか見極め、他のサービスの提案もさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様主体の生活の中、共に活動する時間を大切にし、共に笑い、入居者様の話に耳を傾け共感し、支え合う関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で感染の用心の為、家族会は行えていないが、入居者様の近況状況や健康状態の変化報告等、お電話やお手紙でお伝えし関係性を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の今までの生活を維持することを大切に考え、近所に住んでいた方の面会等気軽に足を運んで頂けるような温かい雰囲気グループホーム作りに努めている。	親戚や孫、スポーツ仲間等の面会時には、関係が継続できるよう、細かい配慮に努めている。電話の取次ぎや年賀状のサポート支援もしている。家族と一緒に法事や病院に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分から輪の中に入っていきることが難しいご入居者様には、職員が間に入り話題を提供したり、レクリエーションにお誘いすることで仲間意識が生まれ、和気あいあいとした雰囲気が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談などがあれば、情報を提供し、家族との関わりを持つようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り入居者様の何気ない様子や会話の中からご本人の思いや希望をくみ取り、又、ご家族様ともお話をしニーズの把握に努めている。	トイレや入浴時など、何気ない日常生活の中で暮らしの希望や意向を把握している。把握が困難な場合は、家族や居宅時代のケアマネジャーから情報収集したり、利用者の表情や言動などから把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、ご本人様・ご家族様よりお話を聞きフェイスシートを作成し、職員全体が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活状況(家事・生活動作・趣味活動等)を経過記録に細かく記入を行い把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中でご家族の要望や一人一人のケアについて職員全員(看護師も含め)で情報交換を行い、ケアの統一が図れるようにしている。	担当職員がモニタリングした結果は計画作成担当者がチェックし、カンファレンスの中で話し合っている。主治医や訪問看護、作業療法士などの意見や提案も計画に反映している。状態が変化した時はその都度、プランを見直ししている。介護ケアアプリを活用し、効率よく情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での小さな気づきや、御本人様の表情や言葉など細かく経過記録に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科の往診、福祉関係のリハビリシューズの購入等、職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて民生委員の方との話し合いの中で情報を取り入れているが、地域の催しの参加は感染の用心の為参加できていない。事業所内の他部署へ訪問をし、気分転換をして楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望する病院に受診の希望があれば受診して頂いている。内容は医療ノートに記入して職員が情報を共有している。	かかりつけ医が協力医であり、2週間に一回受診している。専門医への受診は家族対応としている。定期(週1回)で訪問看護が来ており、健康管理について相談したりアドバイスをもらっている。また、不定期ではあるが作業療法士も来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション(よつ葉)の看護師が、月4回健康チェックを行っている。又職場内に看護師がおり、状況変化や対応について気軽に相談が出来、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院との情報共有を行い連携をとっている。退院前には安心して生活出来るよう準備・対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応についての方針をお渡しし、説明を行っている。事業所の出来る事、出来ない事をお話しし、救急対応等、主治医との話し合いの場を設けている。	契約時、出来ること・出来ないことを説明し、終末期における意思確認書ももらっている。重度化した場合は主治医が説明すると共に、施設長代理が指針等を説明し、同意書を交わしている。外部の看取りの研修に参加した時は、カンファレンスを通じて全職員に周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを作成している。ミーティングで見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回避難訓練を行っている。火災や水害等を想定して避難訓練を行っている。避難経路や自動通報装置の使い方などの再確認をしている。災害時の避難食の備蓄もやっている。	利用者も参加して、夜間を想定した避難訓練(年1回)と水害・火災を想定した訓練(年1回)を行っている。また、消防署立ち合いのもと、消火器の使用法を学んだり、アドバイスをもらったりしている。休憩室に乾パンや栄養補助食品などの備蓄品を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の生活歴を尊重し、レクリエーションや会話の中から主張を見出しその方に即した対応や言葉かけを行っている。そして日頃から職員同士で注意や反省を行うようにしている。	否定的な言葉を使わない、命令口調で話さない、さん付呼称など、自尊心を傷つせず、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけ・対応に努めている。また、年3～4回接遇研修を行い、共通認識を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定しやすい声掛け、希望を言いやすいような環境を作るように配慮している。その人に合った声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の希望や、体調に合わせて、出来るだけその人らしい生活が出来るよう支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔、整髪、男性の方は髭剃りをして頂き、着替えの時はどの服が良いか選んで頂いている。2か月に1回移動美容車が来て、散髪や毛染め等、入居者様と相談しながら理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月行事として季節を感じて頂ける食事や祝い事での献立を工夫している。入居者様と一緒に野菜を切ったり、盛り付けをしたり、手作りのおやつを作ったりしている。食後には後片付け、お盆拭きや、テーブル拭きの手伝いをして頂いている。	行事食(毎月1回)の日には、弁当やお寿司を注文したり、ホットプレートで焼きそばやお好み焼きを焼いたりして、食事が楽しみなものになるように工夫している。また、毎年、利用者からアドバイスをもらいながら、らっきょうを漬けたり、梅(しそ)ジュースを作ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物の種類を増やし、好きなものを飲んで頂けるようにしている。食べにくいおかずはミキサーなどに形態を変えてお出している。嚥下障害がある方には、ミキサー食や水分にとろみをつけ誤嚥予防している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声掛け・介助を行っている。義歯がない方も必ずうがいをして頂くようにしている。ミキサー食の方は、口腔ケアスポンジや、口腔ティッシュでケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるよう、タイミングを計り、自尊心に配慮した声掛け、誘導を行い、気持ちよく排泄が出来るように努めている。	排泄記録から排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導、夜間はポータブルトイレやオシメなど、個々に対応している。布パンツの利用者も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を行ったり、牛乳やお茶等の水分補給を行い、便秘の解消を行っている。入居者一人ひとりの排便チェック表にて把握できている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴支援を行っている。入浴前にご本人様に声掛けを行い、希望の時間帯をお聞きし、出来るだけ希望に沿えるようにしている。	週2～3回の入浴を基本としている。入浴時間(午前・午後)の希望を聞いたり、好きな温度に設定したりして、快適になるよう支援している。また、入浴剤を入れたり、季節湯(ゆず湯)をしたり、世間話をしたりして、楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操をしたり、洗濯たたみ、新聞折り等をして頂き、日中の活動量を増やし、夜間良眠して頂けるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの処方箋やお薬手帳があるので、いつでも確認することができるようにしている。入居者様の症状に変化があれば、医師に服薬の相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・洗濯たたみ・掃除、その方に合った家庭的な活動を支援している。ご本人様の得意とすることや趣味(歌を唄う、塗り絵)等の場を見つけ日々楽しく過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、えんさこ医院周辺を散歩したり、玄関先のプランターの花を見て頂いたり外気浴を行っている。電話や、手紙などでご家族様と連絡を取り、楽しみを支援している。面会の回数は制限していないが、感染の用心の為、予約制にして、時間は10分としている。	家族と一緒に日用雑貨を買いに行ったり、墓参りや法事、挨拶回りに出かけたりしている。コロナ前には、職員と一緒に近くのバラ園に行ったり(家族と現地集合)、初詣に出かけたりしていた。また、スポーツ仲間と一緒にクラブに行く利用者もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金をお預かりすることはしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、御本人様の希望があれば自由に電話が出来るようにしている。お手紙を書かれる方はいませんが年賀状は、職員の声かけ、見守りの上書いて頂いている。投函はこちらでしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者様の手作りの物や、毎月行っているアクティビティの写真と季節の花を飾っている。ホールの照明は、太陽光を遮るロールカーテンを使用し優しい光に包まれている。	共有ホールは天井が高く、解放感があり、温度や湿度も適切に管理されている。また、レクリエーションで作成した壁画や行事写真などが掲示され、季節感を醸している。個々に思い思いの場所でゆったりと過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設周辺の自然環境が豊かで、デッキの椅子に座りおしゃべりをしながら、四季を感じられる環境となっている。ホール内のソファで気の合う方同士でお話する姿も時々見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具や食器などを持ち込んで頂き、その方らしい生活が出来るよう配慮している。	自作のPATCHワーク作品や馴染みの家族写真や毛布、使い慣れた化粧道具などが持ち込まれており、個々に居心地良い空間となっている。また、誕生日の喜びを思い返せる様、家族や職員からもらった誕生日プレゼントや色紙を大切に掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が居室や、トイレ、風呂、洗面所などがわかりやすいように表札や張り紙をして、過干渉にならないよう見守りだけで活動して頂くようにしている。状況に応じてベッドの配置やタンスの位置などを変える工夫をしている。		